

2021年12月28日

松阪市議会議長

堀端脩様

市民クラブ

楠谷 さゆり

エンジェルスカレッジ
オーガニック給食編（初級）

研修報告書

日時：2021年12月23日(木) 11:00~12:30

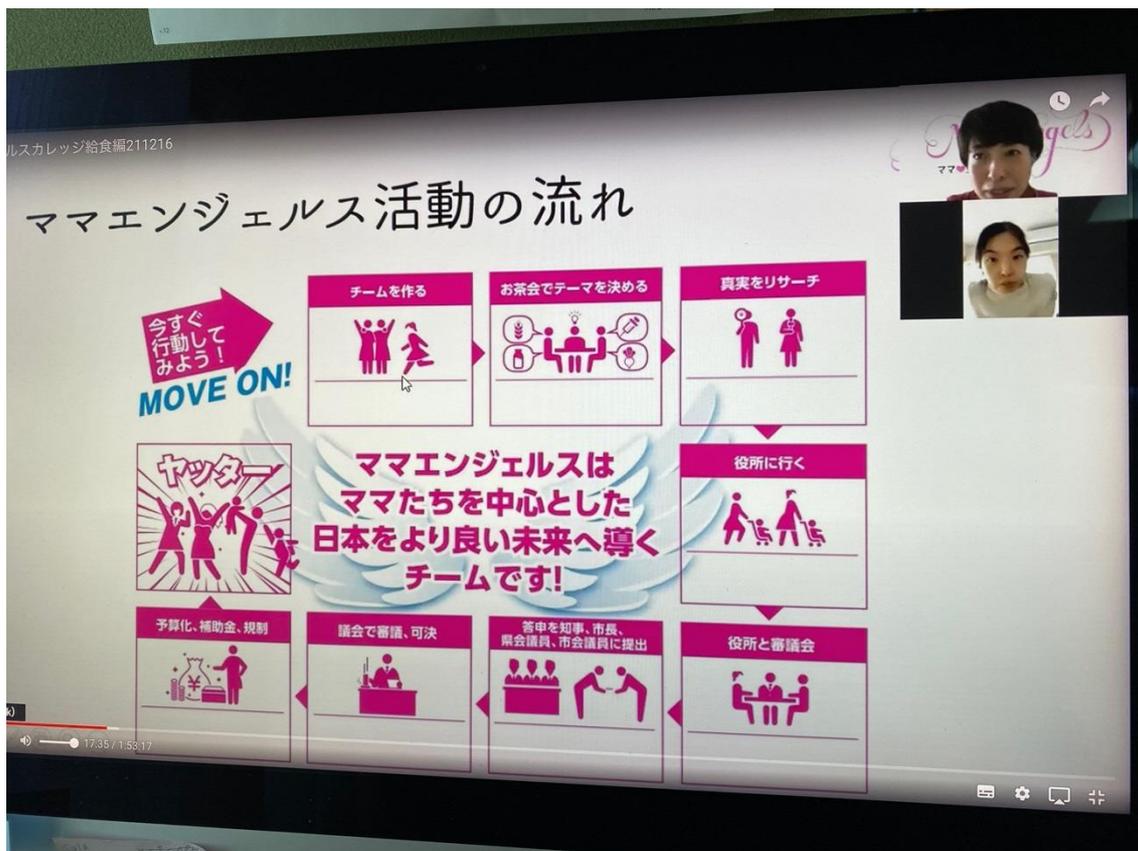
主催：ママエンジェルス

講師：清水公美子（日本オーガニック給食審議会事務局長、

財団法人ママエンジェルス理事）

目的

松阪市民の中で、特に小中学生の子どものいる世帯など、子どもにアレルギーが有ったり、農薬や除草剤の健康への影響を心配し、オーガニック（有機）の食材を使った学校給食を望んでいる人たちが少なからずいる。そういった人たちの意見を吸い上げて市議会で議論していくためにはどのようなプロセスを経ればよいのか、「ママたちを中心とした、日本をより良い未来へ導くチーム」であるママエンジェルス動画配信により学びたいと思う。



(右上が講師の清水公美子さん)

講義内容

① 学校給食を変えていくための関係づくり

まずは学校給食会の組織について調べ、給食の食材を卸している業者や食品商社について知る。給食会は比較的健全に取り組んでいこうとしている姿勢があるが、一食 250~350 円という予算の中でどうしても食材選びに限界があるというのが学校給食会の見解である。勉強会を開いて担当者との信頼関係を

築き、予算が取れたら一食いくらでどの程度のことができるかの具体的な見積りをもろう。

次に栄養士会とも関係作りをする。多くの栄養士は一食 250~350 円の予算の壁を理由に慣行栽培・遺伝子組み換え・抗生物質・ホルモン剤が使用された食材を給食に選んでいる。自然栽培の場合、慣行農法と比べて計画的に調達できない場合があるが、その場合、どのように献立を立てれば良いか研究してもらいと良い。一食 100 円上げるとどの程度のことが可能になるか話し合う。

そして、仕入れ業者とも関係づくりをする。仕入れ業者がいる場合、そのルートを変えようとするとうる反発があることが多い。業者を変えずに仕入れ食品を変えたり、加える方法を提案すると良い。一食 100 円追加すると何ができるか、見積りをもろう。自然栽培や抗生物質・ホルモン剤不要の生産者を紹介する方法もある（業者登録）。

市議会の担当議員を巻き込むことも必要である。この講座では教育関係の委員会で議員を探すと提案しているが、それ以外でも全く問題はない。

そして、生徒、保護者、先生、校長、給食会、管理栄養士、役所の担当者、仕入れ業者、議員など、学校給食を変えることで変化する各関係者のメリットを考えることも必要である。

②行政を動かすには

行政にとってのメリットがある方が市は推進しやすいのであるから、市にとってのメリットを必ず伝える。市のブランディングを手掛けたいなどのメリットは非常に印象が良い。市の人口を増やすことには行政は前向きになるものである。

前例のないことはなかなか進まないが、前例があると市は動きやすい。特に当該市より大きな自治体の前例は参考にすることが考えられる。

オーガニック給食の前例には、石川県羽咋市や千葉県いすみ市などがあり、他にも全国で広がってきている。

③給食費予算の計算を試みる

一つの学校をモデル校とすることを仮定し、給食日数、生徒数、理想の給食のために増額する

予算を計算して、提案する。100円の増加によって可能となる献立を栄養士や給食会と相談するのも良い。

農業の産業育成という観点から固定種・在来種の保護を目的として自然栽培農家に補助金を出してもらい、それを給食に提供するなどの方法も考えられる。

④オーガニック給食審議会を作る

消費者団体、PTA、小中学校の生徒、生産者（農家、畜産、漁業など）、農協、流通団体、大学教授、栄養管理士などをメンバーとし、オーガニック給食審議会を構成する。すでに全国には多くの審議会が出来上がって活動を始めている。



所感

オーガニック給食実現に向かって活動を始める方法を、非常に具体的に指南している。あらゆる関係団体と勉強会を開催することで健全な関係性を作り、予算やそれに基づく献立などを提案することを大切にする方法は、細やかな配慮を総動員して目標に向かって一致団結するよう呼びかけるもので、賛同できる方法論である。議会の一員として、またオーガニック給食の実現を切望する人間としてプロセスに関わりたいと考える。

以上